

機関番号：14401

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20720008

研究課題名（和文） 経験構造の変容の現象学～発達と治癒の分析を軸として

研究課題名（英文） Phenomenology of Metamorphose of Experience -  
Studies on Development and Psychotherapy

研究代表者 村上 靖彦（MURAKAMI YASUHIKO）

大阪大学・人間科学研究科・准教授

研究者番号：30328679

研究成果の概要（和文）：

自閉症における発達に関しては、国立成育医療センターでのフィールドワークをもとに『自閉症の現象学』を出版した。

心理臨床に関する治癒に関しては、主に文献を検討するとともに複数の論文を出版した。またこの研究成果をまとめて『治癒の現象学』という題で出版する予定である。

加えて、看護・介護研究との研究者との連携を開始した。この分野では、まだ2、3本の論文や口頭発表を行ったのみであるが、主体変容の第三の形態として今後研究を続行する予定である。

研究成果の概要（英文）：

In the field of Autism Studies, based on a fieldwork in NCCHD, I published several articles on autism in French and in English and a book in Japanese (Murakami (Y.). *Phenomenology of Autism*. 2008).

On the topic of the “metamorphosis of subject” in the domain of psychotherapy, I published several articles in French and a book in Japanese will be published (Murakami (Y.). *Phenomenology of Psychotherapy*. 2011).

Otherwise, I started to study with the researchers in the field of Nursing Studies and discovered another type of “metamorphosis of subject”. I'd like to develop this last topic.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：哲学・倫理学

科研費の分科・細目：哲学

キーワード：現象学・精神病理学・自閉症・治癒

## 1. 研究開始当初の背景

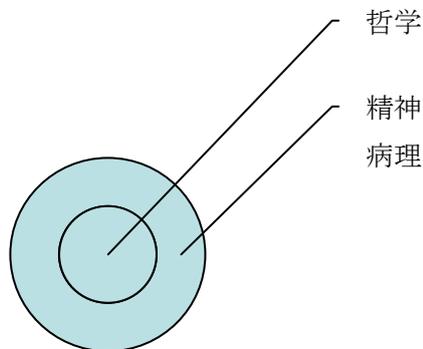
(1) 研究代表者は、2003年より国立成育医療センターでの継続的なフィールドワークを行っている。そこでは自閉症児の体験世界

の現象学的分析を主なテーマとし、科研費をいただいた。その中で、次の研究段階として生じたのが今回の応募課題である。

## (2) 【哲学研究上の背景】

第一に、現象学研究を現在主流の文献研究にとどまらせることなく、本来の具体的な事象の分析へと回帰させたいという希望がある。

また、年来のレヴィナス研究の結果、トラウマなどの疾患の可能性とその克服を、経験の構造に組み込むことで、できあがる哲学が大きく変化することがわかってきた。この研究成果の延長線上で、「治癒の哲学」を構想するにいたった。



## (3) 【臨床的背景】

現在の自閉症の療育は、子どもが持っている能力の範囲で社会に適応するスキルの獲得と問題行動の矯正を目指すものが主流である。しかしこれからは、能力そのものの質的なステップアップをもたらすためにはどうしたらよいのか、その方法論を模索する段階にある(広瀬宏之「自閉症の「治療論」」2007)。

### 2. 研究の目的

「経験構造の変容についての現象学～発達と治癒の分析を軸として」は、人間の経験の構造の肯定的な変容、すなわち「発達」と「治癒」の構造分析を目的とする。このテーマのために、病院でのフィールドワークおよび臨床家との共同研究を通じて、具体的な事象そのものの現象学的分析を行い、その上で、古典的哲学文献の現象学からの読み直しを計る。

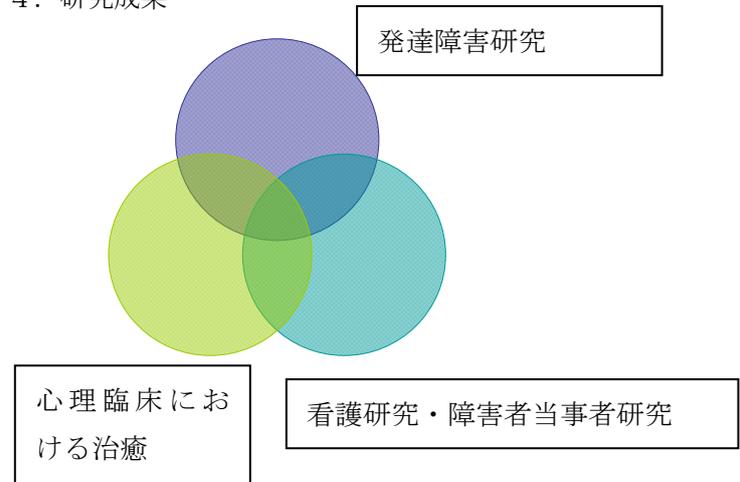
### 3. 研究の方法

(1) 自閉症研究については、フィールドワークおよび臨床家との共同研究を通じて、具体的な事象そのものの現象学的

(2) 心理臨床研究については、以前のフィールドワークの経験をもとに精神科医や臨床心理士との討議と文献検討を中心としている。

(3) 新たに開始した看護・介護における経験構造の研究については、今のところ看護研究などの領域の研究者との討議、および文献検討を行ってきた。

### 4. 研究成果



(1) 2003年以來フィールドワークを行ってきた自閉症に関しては、期待した成果を得ることができた。2008年に『自閉症の現象学』という題で単著を出版した。そのうえで、その後へえた研究成果も数本の論文として発表するとともに、国外、国内の学会での発表および講義などを行うことで研究成果を発表してきている。

(2) 2009年度より心理臨床における治癒概念の検討に研究の重心を移した。心理臨床に関する文献とともに、メルロ＝ポンティやフッサールなどの古典的な現象学の論文を再検討することで、伝統的な現象学を臨床場面の理論的な理解のために応用するための方法論を探ってきた。今までに国外、国内で数本の論文を発表してきたが、その成果は随時論文に発表しているが、2011年に著書としてまとめる予定である。

(3) また2009年度より、経験構造の変容の別様の事例として、看護や介護における看護師・介護者・患者の経験の変容に関する研究を始めている。今のところ数本の論文を発表している段階である。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 19 件)

① Murakami (Y.). Affection d' appel et prénom. Pour une phénoménologie de l' acquisition de la langue et de la communication. *Annales de phénoménologie*. 10. pp.163-176. 2011. 査読有

② 村上靖彦、「看護行為の時間 西村ユミとハイデガー行為論の拡張」、UTCP ブックレット, 18., pp. 141-158. 2011 査読無  
[http://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/publications/2011/02/utcp\\_booklet\\_18/](http://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/publications/2011/02/utcp_booklet_18/)

③ 村上靖彦、「潜在的視線触発—自閉症の基本構造についての現象学的仮説」、『精神科治療学』, 25(12), pp. 1627-1632. 2010 査読無  
<http://www.seiwa-pb.co.jp/search/bo01/bo0102/index.html>

④ Murakami (Y.). Affection of contact and transcendental telepathy in schizophrenia and autism. *Phenomenology and the Cognitive Sciences*. 10(1), online version pp.1-16. 2010. 査読有.  
<http://www.springerlink.com/content/k641821w551560m5/>

⑤ Murakami (Y.). Affection, Autism and Mental Disorders: Husserl's Theory of Meaning and Psychopathology. *Studia Phaenomenologica*. 10, pp. 193-204. 2010. 査読有  
<http://www.studia-phaenomenologica.com/?page=issue&id=10>

⑥ Murakami (Y.). De la télépathie transcendante - La communication et la creativite selon Winnicott. *Annales de Phénoménologie*. 9, pp. 83-96. 2010. 査読有

⑦ Murakami (Y.). Silence, style, rêve : Merleau-Ponty et la métamorphose du sujet. *Bulletin d' analyse phénoménologique*. 5 (7), pp. 1-17. 2009. 査読有  
<http://popups.ulg.ac.be/bap/sommaire.php?id=335>

⑧ Murakami (Y.). Decouverte d' autrui chez les autistes et la structuration du sujet ; Pour une phenomenologie genealogique. *Annales de Phénoménologie*. 8, pp. 163-180. 2009 査読有

[学会発表] (計 9 件)

① Murakami (Y.). Potential Affection of Contact - Autism and Otherness. The Fourth International Conference of Phenomenology for East Asian Circle. 2010. 12. 12. Sun Yat-Sen University, Taiwan

② Murakami (Y.). Le tournant du messianisme en 1961 et la cure du traumatisme. Congres international "Difficile liberte". 2010. 7. 5. Université de Toulouse.

③ 村上靖彦、「超越論的テレパシーから形の次元を抽出する ~自閉症児の並べ遊びとコミュニケーション」、哲学会、2009.10.31、東京大学

④ Murakami (Y.) Transcendental Telepathy, the Communication and the Creativity According to Winnicott. The 3rd PEACE Conference. 2009. 9. 20. Seoul National University

⑤ Murakami (Y.) The Phase of affection, the Sphere of Apparition ; Fundament for the phenomenological psychopathology. Colloque "Ontology and Phenomenology", 2008. 7.5. Keio University.

[図書] (計 4 件)

① 村上靖彦、『自閉症の現象学』、勁草書房、2008、247 頁

② Murakami (Y.). *Hyperbole - pour une*

*psychopathologie lévinassienne.*  
Association pour la promotion de la  
phenomenology. 2008. 115p.

[その他]  
ホームページ等

<http://www.dma.jim.osaka-u.ac.jp/kg-portal/aspi/RX0011D.asp?UNO=18613&seq=38251>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

村上 靖彦 (MURAKAMI YASUHIKO)

大阪大学・人間科学研究科・准教授

研究者番号：30328679